

令和7年度

総合型選抜Ⅰ期 問題 課題作文

試験開始までに下記の注意事項をよく読んでください。

試験時の注意事項

- ① 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- ② 受験票に記載された学科と解答する学科に相違がないか、確認すること。
また、健康栄養学科・看護学科・理学療法学科・作業療法学科の受験者は、受験票に記載された科目と問題冊子に相違がないか確認すること。異なる場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- ③ 開始の合図の後、解答用紙に「氏名」、「受験番号」を記入すること。受験番号は算用数字で記入すること。
- ④ 試験時間は、60分です。
- ⑤ 句読点は1字として数えること。
- ⑥ 下書きは、問題用紙の余白・裏面を使用すること。
- ⑦ 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- ⑧ 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ること。

目 次

	ペ ー ジ
健康栄養学科	1
看護学科	3
理学療法学科	5
作業療法学科	7
生活環境学科	9
児童教育学科	11

次の文章は、教師として国語教育に尽力した大村はまによるものです。これを読んで、後の設問に答えてください。

一生懸命子どもを教えれば必ずできるようになるなんてものではない。そんななまやさしい教室ではないので、こっちがどんなにやったって、わからない子どもも、できない子もいますし、乱暴な子もいます、容易ならないことだと思います。それを子どもに求めるといふか、求めすぎるところに私は甘さがあると思います。

私は、子どもがかわいければ、子どもをとにかく少しでもよくしていける、教師という職業人としての技術、専門職としての実力をもつことだ、子どもをほんとうにかわいがる、幸せにする方法はそのほかにはないんだと思います。それ以外のことはみんな第二流のことだと思います。遊んでやるのもよいし、頭をなでてやるのもよいし、やさしいことばをかけるのも結構、しかしそれらはみな二次的なことです。それをやってもよいというだけの話で、それさえやっていけばよいということではない。やはり、自分の研究の成果、すぐれた指導の実力によって、子どもをほんとうにみがき上げることで、つまり、しっかり教えられなければ、頭をなでて、いっしょに遊んでやっても、それはたいした値うちをもたないのだと思います。

(出典：大村はま『教えるということ』共文社、1973年)

設問1 文中の下線部「遊んでやるのもよいし、頭をなでてやるのもよいし、やさしいことばをかけるのも結構、しかしそれらはみな二次的なことです」について、あなたの考えを述べてください。本文を引用する場合は、必ず引用箇所を「」で示してください。(300字以内)

設問2 あなたはどのようなことを大事にする保育者・教育者になりたいですか。上記の文章を読んだうえで考えたことを述べてください。(500字以内)

〈留意事項〉

必要に応じて段落分けをし、読みやすいようにしてください。